

3人4脚

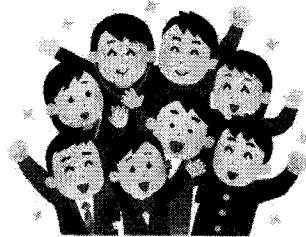


R 3. 5/7(金) 第2号
二宮西中学校学校だより
発行者:和田 智司

早くも5月…本物の中学生、本物の先輩に

～入学・進級したときの夢とやる気を持ち続けてほしい～

1年生は入学してから早くも1ヶ月が過ぎました。中学校生活にも慣れてきたのではないのでしょうか。一方の2・3年生は、先輩としての自覚が出てきたことと思います。いよいよ本物の中学生、本物の先輩としてエンジン全開、ピットからコースへ飛び出す時です。



「5月病」という言葉がありますが、4月から新しい環境の中で一生懸命に頑張ってきた疲れがこの時期になると出やすくなります。保護者の皆様におかれましては、今後もお子さんが“夢とやる気”をずっと持ち続けられるようなアドバイスをしていただけますようよろしくお願いいたします。

今年度から評価が大きく変わります！～新学習指導要領完全実施～

平成12年に学習評価が「目標に準拠した評価」に改められました。それまでは、「学年内での自分の位置がどれくらいなのか」を示す相対評価が用いられていました。したがって、当時は自分より点数が高い人が何人もいると、いくら頑張っても通知票の評定は上がりませんでした。そのため、テストでは平均点をやたらに気にして、自分が全体の中のどの位置にいるのかということばかりに気をとられてしまう状況でした。

しかし、時代は大きく変わり、これからの社会に求められる人間は、他の人よりテストの点数がよかったといった“他者との比較”ではなく、個人が「何ができるのか」「いかに自分で考え、判断し、行動できるのか」といったその人の“資質・能力”になってきています。

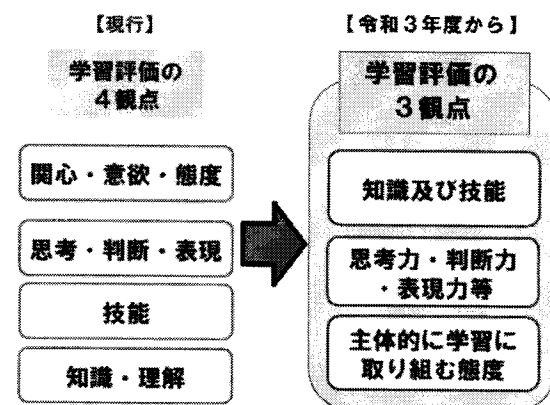
学習評価も同様です。右の図のように、今年度からすべての教科における観点別評価が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つになります。学校では、これらの能力を伸ばすための教育活動を行います。特に教科の学習では、3つの観点のそれぞれについて、学習目標に対する到達度合いを見とり、生徒自身に学習改善を促すとともに、教師自身も授業改善を図り授業力を磨いていきます。

ペーパーテストは、その生徒の学習状況の一つの側面を測定する手段にすぎません。測定できる力は、知識・技能や思考力といった一部の能力です。これからの学校教育では、ペーパーテストによる「所属する集団での位置（順位や平均点）」は、意味をもたなくなります。

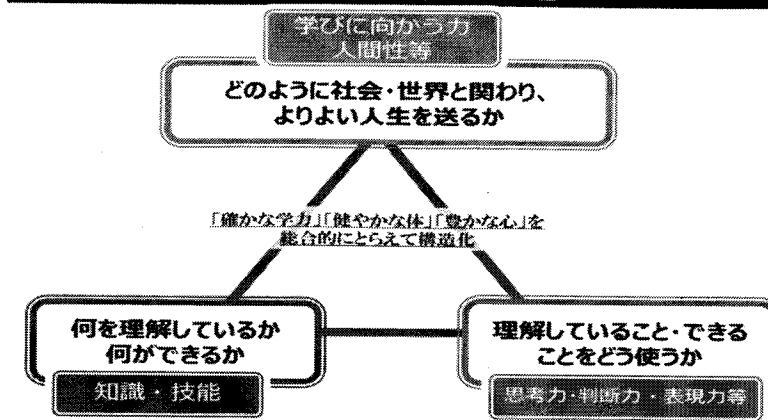
今回の学習指導要領のキーワード＝「予測困難な社会」

さて、平成29年3月に新学習指導要領が示され、小学校では昨年度より完全実施されました。中学校では今年度から完全実施となります。今回の学習指導要領は、「社会に関わった教育課程の実現」を一つの目標としています。学校だけでなく、家庭や地域、企業等の社会全体で子どもたちと関わり、社会全体で育てていこうというねらいがあります。保護者の方にも新学習指導要領の趣旨を理解していただき、学校や地域と同じ方向を向いて子どもの教育にあたっていただくことが必要になってきています。

今回の学習指導要領のキーワードは、「予測困難な社会」です。現在、AI（人工知能）が学習機能を持ち、どんどん進化する時代となっています。将来的に多くの仕事がAIにとって代わられるのではないかとされています。



育成すべき資質・能力の三つの柱



私は「(3) 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性など」が今回の改訂で大いに評価できることだと思っています。特に「意欲」から「学びに向かう力・人間性など」への進化は素晴らしいと感じました。これまでのように知識をたくさん身に付ける時代から、それを「どう使うか」という時代に変化してきています。知識はネット検索で獲得できる時代になりました。これからは知識をいかに活用し、予測困難な時代に対応するかが問われています。

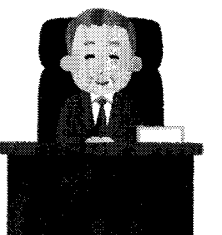
したがって、学校の授業も知識獲得から活用の方向に変革していかなければなりません。生徒が主体となって答えを見つける探求型の授業が求められています。本校では今年度『「一人も見捨てられない学級集団、学習集団づくり」と「資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学び」を目指して』を二宮町小中5校統一研究テーマとして取り組んでいきます。

今年の3月までの授業の様子を見ると学習集団としての「対話」を中心とした授業への転換はかなり定着してきましたが、まだまだ主体的に取り組める姿勢までには至っていません。今年度は主体的に取り組める態度を育成しつつ、深い学びが実現できるような活動、さらには「学びに向かう力・人間性の育成」についても発展していけたらと思っています。

「もしもイチローが社長だったら」から、『こころをみがく』を考える



4/27(火)に行われた今年度初めての朝会で、イチロー選手を起用したある会社のWEBコンテンツシリーズ第三弾、「もしも、イチローが社長だったら」を紹介し、学校教育目標『こころをみがく』に関連させた話をしました。全校生徒が集中して真剣に話を聴いてくれました。4/29(木・祭)のHPでお約束しました朝礼の話の要約を紹介します。



「有能だけど不真面目な社員」、「真面目だけど能力に欠ける社員」がいた時、どちらを評価しますか？みなさんが社長なら、皆さんはどう考えますか？（生徒にしばらく考えさせて、挙手で確認しました。）

イチローは次のように答えます。・・・気持ち的には「真面目な子を評価したいけど、会社としては能力が必要なので、この場合だったら能力のある方を評価します。ただ、長い目で見たときに、やっぱり心があるかどうかというのが会社にとっては大きな財産なので、まじめという能力を評価してあげて、時間はかかるけれど、あるところまでは持っていきたいという気持ちにはなるでしょうね。・・・「有能だけど不真面目な社員」はいずれいなくなるでしょう。

【「まじめを磨いていく」という言葉が画面の最後に紹介されます。】

今年度も、学校教育目標を「こころをみがく」にしました。この目標の実現に向けて、生徒である皆さんを主役にし、保護者・地域の方々と連携し、教職員一丸となって、「3人4脚」で素晴らしい学校を創っていきたいと思っています。・・・「こころ」も「みがく」もすべてひらがなです。「こころ」とは何なのか。そして「みがく」とは何なのか。・・・みなさんが考えたことが正解です。先ほど紹介したのはイチローの考えであり正解は1つではありません。まずは、自分の考えをしっかりと持つことが大切であり、本を読んだり、他の人の考えを聞くことにより、今の自分の考えをより深めることが本当の意味での学びだと私は考えます。自分で自分の「こころをみがいてほしい」と思います。期待しています！

そんな「予測困難な未来社会」において、子どもたちに必要な能力とは何でしょうか。それを示したものが左の図になります。

- (1) 生きて働く知識・技能
- (2) 未知の状況にも対応できる思考力・表現力等
- (3) 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性など

